

## 新年の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
9491	大正14年	新年の部	日出處に國し家して雑煮哉	雑煮	人事
9493	大正14年	新年の部	詩二曰ク家宝に宜し橙も	橙	植物
9667	大正15年	新年の部	故人全集年を迎へてめでたけれ	年迎う	時候
9668	大正15年	新年の部	文章の稿のまゝ新年に入る	新年	時候
9669	大正15年	新年の部	いつ炷きし香の名残や松の内	松の内	時候
10305	昭和3年	新年の部	はつ空の雲をかぎりぬ小松山	初空	天文
10306	昭和3年	新年の部	はつ空や雲は五色にかたまりて	初空	天文
10307	昭和3年	新年の部	はつ空や芦辺の雪に両三家	初空	天文
10308	昭和3年	新年の部	はつ空や古檜雲吐く峰つゞき	初空	天文
10309	昭和3年	新年の部	はつ空に横斜す庵の古木哉	初空	天文
10311	昭和3年	新年の部	屋外の枯木觀來る筆はしめ	書初	人事
10312	昭和3年	新年の部	峻嶺を攀づるが如し筆はしめ	書初	人事
10313	昭和3年	新年の部	厨なる古妻遠し筆はしめ	書初	人事
10314	昭和3年	新年の部	書始やいつ贈られし金不換	書初	人事
10315	昭和3年	新年の部	書始や朝凍りし庵の水	書初	人事
10316	昭和3年	新年の部	書始や窓の垂氷に咫尺して	書初	人事

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
9171	大正12年	春の部	一方に柳靡きつ春吹雪	春吹雪	天文
9172	大正12年	春の部	中流の舟に日射しや春吹雪	春吹雪	天文
9173	大正12年	春の部	思はずの月ハ朧に春吹雪	春吹雪	天文
9174	大正12年	春の部	我等が灯目にや映りて鼻啼く	鼻	動物
9175	大正12年	春の部	議論無用深夜鼻に罵らる	鼻	動物
9178	大正12年	春の部	梅柳唐人笛も聞ゆなり	梅柳	植物
9180	大正12年	春の部	南國の人を弔ふ雪解哉	雪解	地理
9181	大正12年	春の部	女もまじり何の往來や雪融に	雪解	地理
9183	大正12年	春の部	春服や詠じて帰る日高きに	春服	人事
9185	大正12年	春の部	鳥雲に入る時君がたよりかな	鳥入雲	動物
9186	大正12年	春の部	雪解水畔越すに人等語りすぐ	雪解	地理
9187	大正12年	春の部	野蒜萌え / \ 風渡る地を歩む	野蒜	植物
9188	大正12年	春の部	春山の霞を吸ひて樵の見ゆ	春の山	地理
9189	大正12年	春の部	畔近く田螺遊ぶや露の臺	露の臺	植物
9191	大正12年	春の部	先生を送るや春の水に沿ひ	春の水	地理
9193	大正12年	春の部	皆鳴くに鳴かぬ蛙の慵さよ	蛙	動物
9194	大正12年	春の部	芹摘みに天翔りゆく鳥影す	芹	植物
9195	大正12年	春の部	芹摘や四澤の水の湊まるに	芹	植物
9196	大正12年	春の部	莖芹のつむべくなりぬ雁別れ	芹	植物
9197	大正12年	春の部	家遠く芹つむ子等に歸雁哉	芹	植物
9198	大正12年	春の部	せゝらぎに日の匂ひけり芹みどり	芹	植物
9199	大正12年	春の部	芹摘の喚べバ鷹へて田螺採り	芹	植物
9200	大正12年	春の部	芹摘は黙し梅見の語り過ぐ	雑	雑
9202	大正12年	春の部	雲歸る峰又峰の麗かに	麗	時候
9204	大正12年	春の部	春風に背ら吹かせて家路かな	春風	天文
9205	大正12年	春の部	芹採や卑しからざる女の童	芹	植物
9206	大正12年	春の部	芹濯ぐ流れ夕東風吹渡る	芹	植物
9207	大正12年	春の部	芹摘の子等に轟く雷一ツ	芹	植物
9208	大正12年	春の部	山陰や春のつゆおく柴さくら	芝櫻	植物
9209	大正12年	春の部	お兵庫の址のみ存す花遅し	花	植物
9210	大正12年	春の部	三日照りて一日潤ふ春田かな	春の田	地理
9211	大正12年	春の部	崇山や霞を透す雪の霰	霞	天文
9212	大正12年	春の部	照り / \ て一日の夕霞みけり	霞	天文
9214	大正12年	春の部	この花に誰か識らむや雁の糞	花	植物
9215	大正12年	春の部	日の雨や楓のぬれ葉濡れ燕	燕	動物
9216	大正12年	春の部	朝戸出の苗代見るや燕も	燕	動物
9217	大正12年	春の部	芍薬の頃双棲の燕かな	燕	動物
9218	大正12年	春の部	燕の來著きし里や花遅し	燕	動物
9219	大正12年	春の部	遠山の雪や燕翻る	燕	動物
9220	大正12年	春の部	老一人留守居燕子慈々と鳴く	燕の子	動物
9221	大正12年	春の部	翁媪挨拶す燕筋かひに	燕	動物
9222	大正12年	春の部	一ツ家や双飛の燕寢に歸る	燕	動物
9223	大正12年	春の部	燕の今宵を寝ぬる舊巢哉	燕	動物
9224	大正12年	春の部	野仕事や燕もまじる大族ヲ	燕	動物
9226	大正12年	春の部	草を披いて花片を見る愁哉	花	植物
9337	大正13年	春の部	八重垣の瑞垣の邊の霞哉	霞	天文
9338	大正13年	春の部	梅の花を空薫物や御文管	梅	植物
9339	大正13年	春の部	老一木若木に交り春吹雪	春吹雪	天文

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
9340	大正13年	春の部	稀に見る鮮魚に春の吹雪哉	春吹雪	天文
9341	大正13年	春の部	春吹雪白魚網を掠めけり	春吹雪	天文
9342	大正13年	春の部	都上りの美人を見るや春吹雪	春吹雪	天文
9344	大正13年	春の部	人も無げに端山鶯啼にけり	鶯	動物
9345	大正13年	春の部	雲雀沈むや火を免れたる古芒	雲雀	動物
9346	大正13年	春の部	雲雀の國蛙の國と相隣る	雑	雑
9347	大正13年	春の部	舞雲雀紫の山を讃へつゝ	雲雀	動物
9348	大正13年	春の部	今晴れし野路の乾きや舞雲雀	雲雀	動物
9349	大正13年	春の部	やおら起ちぬ雲雀に名残留めつゝ	雲雀	動物
9350	大正13年	春の部	雲雀野や日々に相見る少女どち	雲雀	動物
9351	大正13年	春の部	雲雀野の水平かに流れけり	雲雀	動物
9352	大正13年	春の部	雨細し雲雀揚れば日は南	雲雀	動物
9353	大正13年	春の部	舞雲雀金鶏山は此方かな	雲雀	動物
9354	大正13年	春の部	不二の根の雪怖ろしき雲雀哉	雲雀	動物
9355	大正13年	春の部	落雲雀大根の花を戀ひつゝか	雲雀	動物
9356	大正13年	春の部	春曉の戸にふれて花賣の居り	春曉	時候
9357	大正13年	春の部	吟行の早蕨を折る暇哉	蕨	植物
9358	大正13年	春の部	貴人は野亭におはす蕨哉	蕨	植物
9359	大正13年	春の部	鳥の巢と梢はなりぬ古人の碑	鳥の巢	動物
9360	大正13年	春の部	鳥の巢に塔の丹碧間近なる	鳥の巢	動物
9361	大正13年	春の部	行春の海山かけて風斜	行春	時候
9362	大正13年	春の部	鳥の巢に夜のくもりと成にけり	鳥の巢	動物
9363	大正13年	春の部	藪浅く蕨折る人見知りけり	蕨	植物
9364	大正13年	春の部	旅心そらに鳥の巢高き哉	鳥の巢	動物
9365	大正13年	春の部	啼かはす鳥やこゝらに巢ひけむ	鳥の巢	動物
9366	大正13年	春の部	行春の或は水を趁ひありく	行春	時候
9367	大正13年	春の部	鳥の巢や城の良天徳寺	鳥の巢	動物
9368	大正13年	春の部	蕨折り / \ 山川の淵に臨みけり	蕨	植物
9369	大正13年	春の部	行春や露けしと思ふ宵ありき	行春	時候
9370	大正13年	春の部	蕨折るや遙かに望む市の塵	蕨	植物
9371	大正13年	春の部	行春の鳥のいさかふ草の上	行春	時候
9509	大正14年	春の部	春寒に在りて君がため句を思ふ	春寒	時候
9510	大正14年	春の部	春吹雪一ト時ありてたれ柳	春吹雪	天文
9511	大正14年	春の部	春寒や蝕みつゞる従軍記	春寒	時候
9512	大正14年	春の部	鶯や雪より起きし小柴原	鶯	動物
9513	大正14年	春の部	田の水の饒かなるまゝ田螺在り	田螺	動物
9515	大正14年	春の部	鶯の古巢たづねむ山椿	椿	植物
9517	大正14年	春の部	囀や珠を掘得て山下の	囀	動物
9519	大正14年	春の部	朧夜や橋を渡れば松の里	朧	天文
9520	大正14年	春の部	鶯や山畑拓く朝仕事	鶯	動物
9521	大正14年	春の部	春の野にこもりて物の鳴く音哉	春の野	地理
9522	大正14年	春の部	鳥どもの恋さまさまに霞かな	霞	天文
9523	大正14年	春の部	春愁を知らず流に沿うてゆく	春愁	人事
9524	大正14年	春の部	山行の杉苗春の露しげみ	春の露	天文
9525	大正14年	春の部	木芽あへ處々の啼鳥朗かに	木芽和	人事
9527	大正14年	春の部	曉深み鳥啼立つる卯月哉	卯月	時候
9529	大正14年	春の部	夏に入る草の色城の石垣も	立夏	時候
9530	大正14年	春の部	夏に入る葉雫窓を拂ふ哉	立夏	時候

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
9531	大正14年	春の部	夏に入る雨小寒しや城の木々	立夏	時候
9532	大正14年	春の部	故郷やつゝじがくれに知る女	躑躅	植物
9533	大正14年	春の部	水茶屋の水にさしたるつゝじ哉	躑躅	植物
9534	大正14年	春の部	旅人とつゝじに昔語かな	躑躅	植物
9535	大正14年	春の部	初夏の雨園林を潤しぬ	初夏	時候
9537	大正14年	春の部	卯の花の白き憂を主とす	卯の花	植物
9539	大正14年	春の部	野遊のいつこ硯の水汲まん	野遊	人事
9540	大正14年	春の部	雲雀鳴いて野遊の友など遅き	野遊	人事
9541	大正14年	春の部	野遊や筵のはしの百千草	野遊	人事
9542	大正14年	春の部	野遊や遙かに望む渡舟	野遊	人事
9543	大正14年	春の部	野遊やあらぬ方より男達	野遊	人事
9545	大正14年	春の部	まぼろしやつゝじがくれに小さき物	躑躅	植物
9547	大正14年	春の部	野遊の耳聳つる雉子の聲	野遊	人事
9549	大正14年	春の部	水の上の龍神堂や夏に入る	立夏	時候
9550	大正14年	春の部	神さびてよしある藤の葉勝なる	藤の花	植物
9551	大正14年	春の部	春惜む人々こぞり水の辺に	春惜む	時候
9552	大正14年	春の部	我と相見て春惜む美人かも	春惜む	時候
9553	大正14年	春の部	噴水の断えつ続きつ藤落花	藤の花	植物
9555	大正14年	春の部	風吹かバ吹け幟押立てん	幟	人事
9557	大正14年	春の部	京阪の方角つゝじ藪越に	躑躅	植物
9558	大正14年	春の部	蕨老いてはるけくなりし旅路哉	蕨	植物
9681	大正15年	春の部	春伐りの木口麗に匂ふ哉	麗	時候
9682	大正15年	春の部	春立や蒲團清らに雨をきく	立春	時候
9684	大正15年	春の部	熊撃てとそゝのかす雪の別哉	雪の果	天文
9685	大正15年	春の部	残雪の清らに柳しだれけり	残雪	地理
9686	大正15年	春の部	柳青き見つ書樓を下る時	柳	植物
9688	大正15年	春の部	梅柳天麗かに覆ふ哉	梅柳	植物
9689	大正15年	春の部	絵冊子の亂れ兒らはや雪に出づ	雪	天文
9690	大正15年	春の部	青松葉こぼれて道の凍返る	凍返る	地理
9691	大正15年	春の部	欄前や朧漲る垂柳	朧	天文
9693	大正15年	春の部	老のはて寂の極ミを梅の花	梅	植物
9695	大正15年	春の部	夢しば / 青を踏みぬ雪の宿	踏青	人事
9696	大正15年	春の部	細々と垂氷す春の曉に	春曉	時候
9697	大正15年	春の部	雪名残下萌故に消えにつゝ	雪の果	天文
9699	大正15年	春の部	清淺の水春寒の鶴もなし	春寒	時候
9700	大正15年	春の部	鶯に顔セ古き怡々如たり	鶯	動物
9701	大正15年	春の部	麗や堯にかも似し御頼	麗	時候
9702	大正15年	春の部	二三子後れて至る露の臺	露の臺	植物
9703	大正15年	春の部	詩を学びたりや未だし土筆摘	土筆	植物
9704	大正15年	春の部	麗や各志を言へ	麗	時候
9705	大正15年	春の部	野焼已まず水に臨んで夫子在す	野山焼	人事
9706	大正15年	春の部	鶯を其處と聴きけり山の上	鶯	動物
9707	大正15年	春の部	春風の古葉飛ばすや日の表	春風	天文
9708	大正15年	春の部	谷川のきり岸木芽尚堅し	木の芽	植物
9709	大正15年	春の部	暖や人の棲みけむ大昔	暖	時候
9710	大正15年	春の部	逕行く人影載せて春の水	春の水	地理
9711	大正15年	春の部	童子来てこそづかしけり古落葉	古落葉	植物
9712	大正15年	春の部	いつの世の石器うもれて堇かな	堇	植物

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
9714	大正15年	春の部	鶯の聲喬木の枝に在り	鶯	動物
9715	大正15年	春の部	春の塵と山吹なりぬうつ木垣	春塵	天文
9717	大正15年	春の部	山の雨城下の花に晴にけり	花	植物
9719	大正15年	春の部	或時は釣りさげて花の神祭れ	花	植物
9721	大正15年	春の部	笑を含んで巷の花に手を分つ	花	植物
9722	大正15年	春の部	花に約して松露を贈り來りけり	花	植物
9723	大正15年	春の部	草芳しと見つゝや草履作るらん	草芳し	植物
9724	大正15年	春の部	登臨や萬戸の花の揺ぐ風	花	植物
9725	大正15年	春の部	花人につみて示しぬ通草の芽	花	植物
9726	大正15年	春の部	山路來て花見の裳かゝげけり	花見	人事
9727	大正15年	春の部	花堇こゝに句箋を埋むべく	堇	植物
9728	大正15年	春の部	慵しや衣を拂ふ花のちり	花	植物
9730	大正15年	春の部	蕨長けて子を悲しがる雉子哉	雉子	動物
9731	大正15年	春の部	野に出でゝ泉を遠み春惜む	春惜む	時候
9732	大正15年	春の部	行春の句をかきつらね反古哉	行春	時候
9733	大正15年	春の部	春惜む句未成らず古手帖	春惜む	時候
9734	大正15年	春の部	衣につく柳の絮や春惜む	春惜む	時候
9735	大正15年	春の部	藤つゝじ小高き所友を喚ぶ	雑	雑
9736	大正15年	春の部	藤つゝじ水を索ねて人去りぬ	雑	雑
9737	大正15年	春の部	野遊や所をかへて河嶽の景	野遊	人事
9738	大正15年	春の部	つゝじちりしきて馬糞古りにけり	躑躅	植物
9739	大正15年	春の部	行春や盟ひに背く漁者の友	行春	時候
9969	昭和2年	春の部	大空の春は立てども陰りけり	立春	時候
9970	昭和2年	春の部	春立といへども大地しづま也	立春	時候
9971	昭和2年	春の部	天地を罩めて春寒ひたに在り	春寒	時候
9972	昭和2年	春の部	月は入りぬうなじも膝も春の霜	春霜	天文
9973	昭和2年	春の部	春寒の伊吹に遭ひぬ天が下	春寒	時候
9974	昭和2年	春の部	天そゝる氷は未だ融けなくに	氷	天文
9975	昭和2年	春の部	早川も今かよどまん凍返り	凍返る	地理
9977	昭和2年	春の部	麟鳳來宿帳も綴りけむ	帳綴	人事
9978	昭和2年	春の部	二月や研がんと思ふ斧の錆	二月	時候
9979	昭和2年	春の部	如月や木神祀る樵ども	如月	時候
9980	昭和2年	春の部	二月や新陵の霜の花	二月	時候
9981	昭和2年	春の部	二月や尚繪具ぬる五文舩	二月	時候
9982	昭和2年	春の部	二月や又現はれし山の鬼	二月	時候
9984	昭和2年	春の部	大利根の奥の氷を劈きぬ	氷解	地理
9985	昭和2年	春の部	春泥や嘴を淨めて枝に鳥	春泥	地理
9987	昭和2年	春の部	春泥やいづこを関の蹄跡	春泥	地理
9988	昭和2年	春の部	春泥や籬落の花の白勝に	春泥	地理
9989	昭和2年	春の部	春泥に搏ち落したる小蟲哉	春泥	地理
9990	昭和2年	春の部	春泥や古き都の淺茅原	春泥	地理
9991	昭和2年	春の部	春淺し誰が句に入らむ柳の芽	春淺し	時候
9992	昭和2年	春の部	古梅の魂呼びさませ春の雪	春雪	天文
9993	昭和2年	春の部	碧空や雪間うれしき露の臺	露の臺	植物
9994	昭和2年	春の部	柳垂れてうすらひ自から融くる	薄氷	地理
9995	昭和2年	春の部	春の霜柳に解けて流れけり	春霜	天文
9996	昭和2年	春の部	いちじるく柳青みぬ春吹雪	春吹雪	天文
9997	昭和2年	春の部	火を鑽りて三月絶たずえぞが山	野山焼	人事

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
9998	昭和2年	春の部	山焼くる遠し合戦繪巻見る	野山焼	人事
9999	昭和2年	春の部	雪汁の川波高し野火の果	野山焼	人事
10000	昭和2年	春の部	大嶺の七岐八岐焼くる見ゆ	野山焼	人事
10001	昭和2年	春の部	山焼の燧袋も古にけり	野山焼	人事
10002	昭和2年	春の部	山焼や火を鑽れば啼く枝の鳥	野山焼	人事
10004	昭和2年	春の部	鶯の宿をこそ見め曉深く	鶯	動物
10005	昭和2年	春の部	おのがじゝ地を占めてをり露の臺	露の臺	植物
10006	昭和2年	春の部	欣然口を開くに似たり露の臺	露の臺	植物
10007	昭和2年	春の部	草蒨えぬ地もなし吾子思はぬ日も	草蒨	植物
10008	昭和2年	春の部	草蒨ゆるはじめ大方紫に	草蒨	植物
10009	昭和2年	春の部	鳥も來ずすくよかに草蒨え出でぬ	草蒨	植物
10010	昭和2年	春の部	風邪の目に早下蒨の浅みどり	草蒨	植物
10012	昭和2年	春の部	巢雀の夙に出て啼く此事か	雀の巢	動物
10014	昭和2年	春の部	うがらやがら雀も囃せ鶯も	鶯	動物
10016	昭和2年	春の部	遠つ祖の倚りにけむ木ぞ百千鳥	百千鳥	動物
10017	昭和2年	春の部	梅柳鼎にちりも無かりけり	梅柳	植物
10019	昭和2年	春の部	我が外に誰ぞ鶯を諦聽す	鶯	動物
10021	昭和2年	春の部	遷りゆく喬木正に芽ぶきつゝ	芽吹く	植物
10023	昭和2年	春の部	牡丹の朱となるべく蒼む哉	牡丹	植物
10025	昭和2年	春の部	明日の事に松露を掘らん夜の雨	松露	植物
10026	昭和2年	春の部	松露掘れと吾に簞かす主人あり	松露	植物
10027	昭和2年	春の部	花に負きて遙けくも來つ松露掘	松露	植物
10028	昭和2年	春の部	松露掘りし籃にいつこの落花哉	松露	植物
10029	昭和2年	春の部	海に向いて長嘯す或ハ松露掘る	松露	植物
10030	昭和2年	春の部	古草を焚く火に松露炙りけり	松露	植物
10032	昭和2年	春の部	松籟を聽て巢にある燕哉	燕	動物
10034	昭和2年	春の部	春惜む一筋心碑の前に	春惜む	時候
10035	昭和2年	春の部	春惜む人にまじりて往還り	春惜む	時候
10036	昭和2年	春の部	春を惜め同じ流れの季吟門	春惜む	時候
10037	昭和2年	春の部	神の前行春の塵を留めけり	行春	時候
10039	昭和2年	春の部	日は照れど霞潤ふ松の間	霞	天文
10040	昭和2年	春の部	防風老いしに誰が子今朝又牛放つ	防風	植物
10042	昭和2年	春の部	誰摘まぬ木芽ほうけて鳥の啼く	木の芽	植物
10044	昭和2年	春の部	幾里行く脚の力や春暮れて	暮春	時候
10328	昭和3年	春の部	獨樹孤碑酒を酌ぎつ梅の花	梅	植物
10329	昭和3年	春の部	探梅や主人に留む三顧の詩	探梅	人事
10330	昭和3年	春の部	禽起ちて谿越す梅の東雲に	梅	植物
10331	昭和3年	春の部	梅固し急流石を轉じつゝ	梅	植物
10332	昭和3年	春の部	車輕し眉目を掠む梅の風	梅	植物
10333	昭和3年	春の部	奇しき亀畏きトや梅の花	梅	植物
10335	昭和3年	春の部	鶴頸とひさごも祝へ梅の花	梅	植物
10337	昭和3年	春の部	よき年のよき草摘みて籠に盈てり	摘草	人事
10339	昭和3年	春の部	ゆきす支の國定まりぬ梅柳	梅柳	植物
10341	昭和3年	春の部	囀や雨は大野を潤しぬ	囀	動物
10342	昭和3年	春の部	囀や泉に遊ぶ両三鳥	囀	動物
10343	昭和3年	春の部	囀や乳の如垂る枝の雨	囀	動物
10344	昭和3年	春の部	囀の岡低く川舒びにけり	囀	動物
10345	昭和3年	春の部	大和の山相争ひき囀に	囀	動物

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
10346	昭和3年	春の部	囀や相あらそひしうねび山	囀	動物
10347	昭和3年	春の部	囀や畝傍ををしと争ひし	囀	動物
10348	昭和3年	春の部	千峰萬峰の底や涅槃像	涅槃會	人事
10349	昭和3年	春の部	雪山をまのあたりにす涅槃像	涅槃會	人事
10350	昭和3年	春の部	沙羅双樹の萌ゆる聲あり涅槃像	涅槃會	人事
10351	昭和3年	春の部	ひたゆるゝ柳の條よ春の雪	春雪	天文
10352	昭和3年	春の部	世の中は小判の沙汰や猫の戀	猫の戀	動物
10354	昭和3年	春の部	雲の上は白酒黒酒に匂ふ秋	秋	時候
10356	昭和3年	春の部	薫風や五六騎城を出て遊ぶ	薫風	天文
10357	昭和3年	春の部	精神ハ斯花白し老梅忌	鳴雪忌	人事
10358	昭和3年	春の部	細柴や路にさし出て皆芽ぐむ	芽吹く	植物
10359	昭和3年	春の部	蔞の臺畦越す水に苔みつゝ	蔞の臺	植物
10360	昭和3年	春の部	さまざまに戀つくしたる蛙哉	蛙	動物
10361	昭和3年	春の部	いきものゝ戀しなぐゝに水温む	水温む	地理
10362	昭和3年	春の部	踏青や龍戦ひし野を遠み	踏青	人事
10363	昭和3年	春の部	踏青や玉とあざむく鳥の糞	踏青	人事
10364	昭和3年	春の部	誰と共に青きを踏まん白頭翁	踏青	人事
10365	昭和3年	春の部	踏青の子や邯鄲の市を過ぐ	踏青	人事
10366	昭和3年	春の部	踏青やひゝなが宿に夜は寝ねん	踏青	人事
10367	昭和3年	春の部	踏青の客や故郷の人ならず	踏青	人事
10368	昭和3年	春の部	踏青や鸚鵡は籠に留まりて	踏青	人事
10369	昭和3年	春の部	鶯の來鳴くも知らず畑に在り	鶯	動物
10370	昭和3年	春の部	春の日の透る古葉よ古苔よ	春の日	天文
10372	昭和3年	春の部	此下に玉を埋めたり落椿	椿	植物
10373	昭和3年	春の部	蜂群るゝ雑木の花の一日かな	蜂	動物
10374	昭和3年	春の部	蜂來り促がす遅吟晝深く	蜂	動物
10375	昭和3年	春の部	蜂未だ起きず閑伽はや汲了へつ	蜂	動物
10376	昭和3年	春の部	蜂の巢や久矣經櫃開かざる	蜂の巢	動物
10377	昭和3年	春の部	蕊深き蜂や晨の露じめり	蜂	動物
10378	昭和3年	春の部	蕊深く蜂の翅を斂めけり	蜂	動物
10379	昭和3年	春の部	頭長き新發意蜂に螫されけり	蜂	動物
10380	昭和3年	春の部	蜂の巢や久し鐘樓に上らざる	蜂の巢	動物
10381	昭和3年	春の部	袂軽く扇の影と蜂の影	蜂	動物
10382	昭和3年	春の部	蜂の影扇の影と水に在り	蜂	動物
10383	昭和3年	春の部	扇影やかざしに迫る蜂一ツ	蜂	動物
10385	昭和3年	春の部	住吉や探題更に藤の花	藤の花	植物
10387	昭和3年	春の部	人知らぬ鶯聴くも山の幸	鶯	動物
10389	昭和3年	春の部	山法師矛の先なる藤の花	藤の花	植物
10390	昭和3年	春の部	山吹ハきのふか刈りし藤の花	藤の花	植物
10391	昭和3年	春の部	石の如憑む木枯れつ藤の花	藤の花	植物
10392	昭和3年	春の部	野茶湯の客のよるべや藤の花	藤の花	植物
10394	昭和3年	春の部	恒河沙に甘露湛へつ佛生會	仏生會	人事
10395	昭和3年	春の部	灌佛や一滴々の法の乳	仏生會	人事
10396	昭和3年	春の部	紫の雲は藤かも花御堂	花祭	人事
10397	昭和3年	春の部	花御堂尚ほのかなり暮の星	花祭	人事
10398	昭和3年	春の部	雪山はうしろに聳ゆ花御堂	花祭	人事
10400	昭和3年	春の部	松露掘と人に見られし一日哉	松露	植物
10401	昭和3年	春の部	山盛の松露こぼさぬ徑かな	松露	植物

大正12年～昭和3年、不詳

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
10403	昭和3年	春の部	一日野をゆけバ一日の春暮るゝ	暮春	時候
10405	昭和3年	春の部	依々として妻ハ摘みおり遅蕨	蕨	植物
10406	昭和3年	春の部	草鞋緒を結ぶに雉子のほろゝ哉	雉子	動物
10407	昭和3年	春の部	篠原や透く日斜に篠子採る	筍	植物
10606	不詳	春の部	春の夜や闇に灯して詩仙堂	春の夜	時候



No.	作句年	部	俳句	季語	分類
9228	大正12年	夏の部	父も母も牡丹散りしを知らざりき	牡丹	植物
9229	大正12年	夏の部	喪に居りて庭樹のしげり怖ろしき	茂り	植物
9230	大正12年	夏の部	このいちごの香よ色よ徒に腐りゆく	苺	植物
9231	大正12年	夏の部	汝に告ぐ豌豆の花白かりし	豌豆の花	植物
9234	大正12年	夏の部	煩惱の手に掃ひけり夏のつゆ	夏の露	天文
9373	大正13年	夏の部	朝戸開く童女に牡丹ゆらぎけり	牡丹	植物
9374	大正13年	夏の部	菖蒲蓬軒に炊烟颯りけり	菖蒲	植物
9375	大正13年	夏の部	弟兄のきそひ引來る菖蒲かな	菖蒲	植物
9376	大正13年	夏の部	桐の花水に流るゝ嵐かな	桐の花	植物
9377	大正13年	夏の部	豁うなる空に吹入る青嵐	青嵐	天文
9378	大正13年	夏の部	青梅や毛虫及ばぬ斜一枝	梅の實	植物
9379	大正13年	夏の部	雨冷えや若葉にこもる禽の声	若葉	植物
9380	大正13年	夏の部	山鳩の二ツ飛び立つ若葉哉	若葉	植物
9381	大正13年	夏の部	谷川の橋危きに若葉哉	若葉	植物
9382	大正13年	夏の部	曼多羅に若葉耀く日尊き	若葉	植物
9383	大正13年	夏の部	網打てバ底くゞる魚や淵若葉	若葉	植物
9384	大正13年	夏の部	澗水の底明りする若葉哉	若葉	植物
9385	大正13年	夏の部	若葉山人住みて麦黄む也	若葉	植物
9386	大正13年	夏の部	神宮の木々の若葉やまのあたり	若葉	植物
9387	大正13年	夏の部	日に雨に若葉悲しく潔し	若葉	植物
9388	大正13年	夏の部	若葉風馬に飲ふ両三騎	若葉	植物
9389	大正13年	夏の部	青梅に訪來る人の帽古き	梅の實	植物
9390	大正13年	夏の部	青梅や賓客と踏む庭の苔	梅の實	植物
9391	大正13年	夏の部	青梅や俄に曇る麓村	梅の實	植物
9392	大正13年	夏の部	青梅や机に通ふ朝嵐	梅の實	植物
9393	大正13年	夏の部	青梅や錢弄ぶ童達	梅の實	植物
9394	大正13年	夏の部	青梅や遺稿を寫し了る頃	梅の實	植物
9395	大正13年	夏の部	青梅を後ろに窯の火を見居り	梅の實	植物
9396	大正13年	夏の部	青梅に陶やく窯の焰かな	梅の實	植物
9397	大正13年	夏の部	夏草にひた押寄する出水哉	夏草	植物
9398	大正13年	夏の部	夏草に蹄ぬれ來る子馬かな	夏草	植物
9399	大正13年	夏の部	夏草に支ふものなき奔馬哉	夏草	植物
9400	大正13年	夏の部	喜雨亭の跡夏草の葉廣草	夏草	植物
9401	大正13年	夏の部	蛇のゐる夏草薙ぎて進みけり	夏草	植物
9402	大正13年	夏の部	桑の実に薄暑の人の憩ひけり	薄暑	時候
9403	大正13年	夏の部	よき水の想出にみつ薄暑人	薄暑	時候
9404	大正13年	夏の部	著飾りて薄暑行く也緑の野	薄暑	時候
9405	大正13年	夏の部	薄暑來て山人と會ふ湖の人	薄暑	時候
9406	大正13年	夏の部	一路平安薄暑の草に笠を置く	薄暑	時候
9407	大正13年	夏の部	蠅つりて二三子去りぬ芭蕉庵	蚊帳	人事
9408	大正13年	夏の部	語りつきてかたふく月に蠅つりぬ	蚊帳	人事
9409	大正13年	夏の部	蠅つりて座る所も無かりけり	蚊帳	人事
9411	大正13年	夏の部	熱くなき涼しくもなき國とかや	涼し	時候
9560	大正14年	夏の部	石に彫りし我が句の魂か閑古鳥	閑古鳥	動物
9561	大正14年	夏の部	野路ゆけバ雲むれ去るや茨の花	茨の花	植物
9562	大正14年	夏の部	館址の茂りを醜し大河あり	茂り	植物
9563	大正14年	夏の部	明易き大河の橋を渡り去る	短夜	時候
9564	大正14年	夏の部	つゆ雲に濕ふや我が旅衣	梅雨雲	天文

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
9565	大正14年	夏の部	蛍一つ句碑のあたりを飛去らず	蛍	動物
9566	大正14年	夏の部	神木を放れて蛍一ツ哉	蛍	動物
9567	大正14年	夏の部	老憂しや暁方の蛍見て	蛍	動物
9568	大正14年	夏の部	羽搏ちくる火蛾や木鳴らす夜嵐に	蛾	動物
9569	大正14年	夏の部	執著や二ツ相搏つ灯取虫	灯取蟲	動物
9570	大正14年	夏の部	灯の虫のむくろを棄てつ露涼し	夏の露	天文
9571	大正14年	夏の部	火蛾悲し尸を曬す古經卷	蛾	動物
9572	大正14年	夏の部	水盤を海と浮びつ灯取虫	灯取蟲	動物
9573	大正14年	夏の部	男沼女沼水草の花黄に白に	水草の花	植物
9574	大正14年	夏の部	萍の花撲つ雨を喜びぬ	萍	植物
9575	大正14年	夏の部	眞菰すく / \ 萍の花平ら也	萍	植物
9576	大正14年	夏の部	水草の花咲いて水の魔を封ず	水草の花	植物
9577	大正14年	夏の部	水草の花の盛りを禊かな	水草の花	植物
9579	大正14年	夏の部	禮佛や堂を下れば瓜の花	瓜の花	植物
9580	大正14年	夏の部	雨急也茂の中の朴廣葉	茂り	植物
9581	大正14年	夏の部	山寺の石を潤ほしよだち過ぐ	夜立ち	天文
9582	大正14年	夏の部	帽軽き帰省の子らよ瓜の花	瓜の花	植物
9583	大正14年	夏の部	繭干して小家山雨に襲はるゝ	繭	人事
9584	大正14年	夏の部	一木の白花こぼるゝ茂かな	茂り	植物
9585	大正14年	夏の部	河鹿棲む水を湛へて茂哉	茂り	植物
9586	大正14年	夏の部	繭賣りて淋しき灯かゝげけり	繭	人事
9587	大正14年	夏の部	貧しさはよき繭盛りぬ古筐	繭	人事
9589	大正14年	夏の部	朗らかに晴開けバ夏樹哉	新樹	植物
9741	大正15年	夏の部	うつ木咲く鄙に讀むべき歌書もなし	卯の花	植物
9742	大正15年	夏の部	うの花の垣並めて祭休み哉	卯の花	植物
9743	大正15年	夏の部	水鳴るは闇の垣根やうつ木咲く	卯の花	植物
9744	大正15年	夏の部	したゝかな露の一朝うつ木咲く	卯の花	植物
9746	大正15年	夏の部	吾棲みて舊りぬる軒や菖蒲葺く	菖蒲葺	人事
9748	大正15年	夏の部	來し方や道一筋の花卯木	卯の花	植物
9749	大正15年	夏の部	推敲の觀瀾記事や心太	心太	人事
9750	大正15年	夏の部	百里來て交を結ぶ心太	心太	人事
9751	大正15年	夏の部	貧しかれど娘ハ賣らじ心太	心太	人事
9752	大正15年	夏の部	月山の雪汁すゝれ心太	心太	人事
9754	大正15年	夏の部	心太さそくのあるじまうけ哉	心太	人事
9756	大正15年	夏の部	新樹道をてらして泉近づけり	新樹	植物
9757	大正15年	夏の部	硯石風に潤ふ新樹かな	新樹	植物
9758	大正15年	夏の部	賀の筵新樹に扇ひらめかす	新樹	植物
9759	大正15年	夏の部	酒微醺に入り新樹光あり	新樹	植物
9761	大正15年	夏の部	鮎もくれて儕故し百合花	百合	植物
9762	大正15年	夏の部	座右の物茶經三卷籠枕	籠枕	人事
9763	大正15年	夏の部	莊周が夢の行方や籠枕	籠枕	人事
9764	大正15年	夏の部	竹夫人廬山の雨を含みけり	竹夫人	人事
9765	大正15年	夏の部	抱箆の夢や青海原の上	竹夫人	人事
9766	大正15年	夏の部	抱箆や碧紗を隔つ夜の空	竹夫人	人事
9768	大正15年	夏の部	鳶も魚も處に在りてつゆ曇	梅雨雲	天文
9770	大正15年	夏の部	夏山に虎溪と名づけ廬せり	夏山	地理
9771	大正15年	夏の部	夏山の何れにか在る氷室守	夏山	地理
9772	大正15年	夏の部	夏山や山守もなき流レ水	夏山	地理

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
9773	大正15年	夏の部	夏山に人を導く日午也	夏山	地理
9774	大正15年	夏の部	夏山に誰ぞ廬して衣干す	夏山	地理
9775	大正15年	夏の部	夏山の霞を吸ひて嘶ふ馬	夏山	地理
9776	大正15年	夏の部	蚊火焚くと主人出て行く宵闇よ	蚊遣	人事
9777	大正15年	夏の部	賓人と大に笑ふ蚊やり哉	蚊遣	人事
9778	大正15年	夏の部	蚊火すてゝ主人嘯き去にけり	蚊遣	人事
9779	大正15年	夏の部	蚊火けふるあたりに吾を待つらんぞ	蚊遣	人事
9780	大正15年	夏の部	古軒に釣竿かゝる蚊遣哉	蚊遣	人事
9781	大正15年	夏の部	魚籃あけて少き魚や蚊やり草	蚊遣	人事
9783	大正15年	夏の部	撫子や濃かれと灌ぐ花の色	撫子	植物
9784	大正15年	夏の部	蚊火けふり主人が姿かくれけり	蚊遣	人事
9786	大正15年	夏の部	瓜茄子の徳を修めんとぞ思ふ	雑	雑
9788	大正15年	夏の部	三尺の庭に玉たり墓	墓	動物
9789	大正15年	夏の部	南天の花踏んで墓出にけり	墓	動物
9790	大正15年	夏の部	墓出てゝ主人やうやく酔來る	墓	動物
9791	大正15年	夏の部	茗荷林を浪々の身や墓	墓	動物
9792	大正15年	夏の部	萩早く苔みて墓の名残哉	墓	動物
9793	大正15年	夏の部	杯を啣みて墓と相見たる	墓	動物
9794	大正15年	夏の部	百合の丈の高くもあるか墓	墓	動物
9795	大正15年	夏の部	鱗を獲て絶ちし筆はや墓	墓	動物
9796	大正15年	夏の部	闇の中に残りぬ墓と庭石と	墓	動物
10046	昭和2年	夏の部	高木渡る風や幟の吹流し	鯉幟	人事
10047	昭和2年	夏の部	幟白し眞田が跡の一郭	幟	人事
10048	昭和2年	夏の部	蕃山の葉山の中の幟哉	幟	人事
10049	昭和2年	夏の部	幟吹くや水の流の朝嵐	幟	人事
10050	昭和2年	夏の部	幟立つや五日の空の深みどり	幟	人事
10052	昭和2年	夏の部	卯の花を詠じて迎へ給ふらむ	卯の花	植物
10055	昭和2年	夏の部	琵琶罷んで皆春惜む人ばかり	春惜む	時候
10057	昭和2年	夏の部	深山鳥羽耀かす五月晴	五月晴	天文
10058	昭和2年	夏の部	裏山や五月晴して朴高木	五月晴	天文
10059	昭和2年	夏の部	五月晴水を隔つる翠微哉	五月晴	天文
10060	昭和2年	夏の部	五月晴翠微に颯る烟哉	五月晴	天文
10061	昭和2年	夏の部	海の如く野ハ緑なり五月晴	五月晴	天文
10062	昭和2年	夏の部	鳥めかす枝の雀や五月晴	五月晴	天文
10063	昭和2年	夏の部	故郷は花なき草の茂哉	草茂る	植物
10064	昭和2年	夏の部	草茂る中の笕や山の水	草茂る	植物
10065	昭和2年	夏の部	山水の流れて白し五月晴	五月晴	天文
10066	昭和2年	夏の部	古道を行けば家なし草茂る	草茂る	植物
10068	昭和2年	夏の部	藤の花虚空高きに揺ぐ哉	藤の花	植物
10070	昭和2年	夏の部	青嵐嵯峨の話のつきなくに	青嵐	天文
10071	昭和2年	夏の部	與に見る保津川石や子規	時鳥	動物
10073	昭和2年	夏の部	六月の鶯を道の枝折哉	六月	時候
10074	昭和2年	夏の部	山に上る僧俗二人夏の露	夏の露	天文
10075	昭和2年	夏の部	木いちごに靄の痕見つ閑話頭	木苺	植物
10077	昭和2年	夏の部	繭かきの一人に蝶や近く來る	繭	人事
10078	昭和2年	夏の部	繭かきの額の汗や唐葵	繭	人事
10080	昭和2年	夏の部	諸悪莫作鼻高ながら墓	墓	動物
10082	昭和2年	夏の部	はしきやし雀子は巢に籠りゐる	雀の子	動物

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
10084	昭和2年	夏の部	易へずあらむ宵々蚊火の置所	蚊遣	人事
10086	昭和2年	夏の部	八重垣に濃緑菖蒲匂ひけむ	菖蒲	植物
10087	昭和2年	夏の部	三笑の聲聴知らむ蝸牛	蝸牛	動物
10088	昭和2年	夏の部	金泥の文字見ぬ久し蝸牛	蝸牛	動物
10089	昭和2年	夏の部	でゝむしや角の上なる寂しをり	蝸牛	動物
10090	昭和2年	夏の部	紫陽花の露を喰ひぬ蝸牛	蝸牛	動物
10091	昭和2年	夏の部	金泥の書に近づかずかたつぶり	蝸牛	動物
10092	昭和2年	夏の部	蝸牛兵火を遁れこゝに在り	蝸牛	動物
10093	昭和2年	夏の部	病葉や梢に見たる梅小粒	病葉	植物
10094	昭和2年	夏の部	病葉のちり / \ 早つゞくらし	病葉	植物
10095	昭和2年	夏の部	病葉に何喧すし群雀	病葉	植物
10096	昭和2年	夏の部	病葉のちりからびたり苔の上	病葉	植物
10097	昭和2年	夏の部	病葉や人を夢みる紅閨裡	病葉	植物
10098	昭和2年	夏の部	かまびすく病葉落す群雀	病葉	植物
10100	昭和2年	夏の部	蓬萊の香ぐの果も簞	簞	人事
10102	昭和2年	夏の部	あらがねの土を離れて瓜の花	瓜の花	植物
10103	昭和2年	夏の部	瀧水に葛の葉ぬれて眞夏なる	滝	地理
10104	昭和2年	夏の部	淙々と瀧壺浅し蟬の聲	滝	地理
10105	昭和2年	夏の部	瀧を觀る良久し手に夏蕨	滝	地理
10106	昭和2年	夏の部	蕃山に道失へり瀧の音	滝	地理
10107	昭和2年	夏の部	滝の末かちわたりせむ葛の花	滝	地理
10409	昭和3年	夏の部	薰風や貢の禽の餌につく	薰風	天文
10410	昭和3年	夏の部	白鷗ハ籠に返らず風かほる	薰風	天文
10411	昭和3年	夏の部	薰風や雫は潜む苔の中	薰風	天文
10412	昭和3年	夏の部	薰風に長途の笠や羽黒山	薰風	天文
10413	昭和3年	夏の部	薰風や驛路すぐる鈴の聲	薰風	天文
10415	昭和3年	夏の部	短夜の心あまりて鳴く蛙	短夜	時候
10416	昭和3年	夏の部	魚棲まぬ水の深さよ青嵐	青嵐	天文
10417	昭和3年	夏の部	閑古鳥幾たび影を醜しけむ	閑古鳥	動物
10418	昭和3年	夏の部	岩に巢ふ小禽何々苔の花	苔の花	植物
10419	昭和3年	夏の部	六月や岩に花咲く晝の露	六月	時候
10420	昭和3年	夏の部	流るゝは鳥の古巢か青嵐	青嵐	天文
10421	昭和3年	夏の部	夕立雲裂けて碎けて岩孤ツ	夕立	天文
10422	昭和3年	夏の部	夏雲と孰れ傾く岩穂かな	夏の雲	天文
10423	昭和3年	夏の部	常盤木の落葉もたぎち流れけり	常盤木落葉	植物
10425	昭和3年	夏の部	城址の近きに家す青すたれ	青簾	人事
10426	昭和3年	夏の部	よき水に立寄る人や青簾	青簾	人事
10427	昭和3年	夏の部	岩せまる谿に家しつ青簾	青簾	人事
10429	昭和3年	夏の部	庭を見て未だ帰らず青簾	青簾	人事
10430	昭和3年	夏の部	薰風や兜を祀る杉の中	薰風	天文
10431	昭和3年	夏の部	指し示す杉のあはひや古清水	清水	地理
10432	昭和3年	夏の部	利き鈍き鋤埋れて草清水	清水	地理
10433	昭和3年	夏の部	水を戀ひて啼くらむ鳥ぞ早苗取	早苗取	人事
10434	昭和3年	夏の部	睡蓮や逕は曲る豎穴へ	睡蓮	植物
10436	昭和3年	夏の部	蚊帳の夢きのふの山の翠かな	蚊帳	人事
10437	昭和3年	夏の部	山水を脱却したり明易き	短夜	時候
10438	昭和3年	夏の部	物賣ハ鮎にかあらむ釣忍	釣忍	人事
10439	昭和3年	夏の部	戸をさゝで獨となりぬ釣忍	釣忍	人事

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
10440	昭和3年	夏の部	逢はぬ戀にすりけむ昔忍草	忍草	植物
10441	昭和3年	夏の部	たぎつ瀬に垂れつ乱れつ忍草	忍草	植物
10442	昭和3年	夏の部	石女やつりて久しき忍草	釣忍	人事
10444	昭和3年	夏の部	畚の土胡瓜の花に振りこぼす	瓜の花	植物
10446	昭和3年	夏の部	露涼し夜と別るゝ花の様	夏の露	天文
10448	昭和3年	夏の部	水近き潤ひ芭蕉巻葉哉	芭蕉玉巻	植物
10449	昭和3年	夏の部	日中や地に梅干の壺一ツ	梅干す	人事
10450	昭和3年	夏の部	枝に在りしきのふの梅を漬にけり	梅干す	人事
10452	昭和3年	夏の部	吾が思ふ方へ靡けり女郎花	女郎花	植物
10453	昭和3年	夏の部	蓮の實の飛ぶと知りたる賢さよ	蓮實飛ぶ	植物
10454	昭和3年	夏の部	海に入って鯉に近づく雀かな	雀蛤となる	動物
10456	昭和3年	夏の部	句は知らず古人幾夜の火取蟲	灯取蟲	動物
10460	昭和3年	夏の部	夏草を踏みしだき來て獨なる	夏草	植物
10461	昭和3年	夏の部	百合挿して手桶重げに運び出づ	百合	植物
10462	昭和3年	夏の部	古妻の手桶重げに百合の花	百合	植物
10464	昭和3年	夏の部	葉よれ草祈雨の修法の水はじく	雨乞	人事
10465	昭和3年	夏の部	雨乞や涙をつづるのりごと	雨乞	人事
10466	昭和3年	夏の部	雨乞に草木鳴を鎮めたり	雨乞	人事
10467	昭和3年	夏の部	雨乞に上る裾野の小家より	雨乞	人事
10468	昭和3年	夏の部	雨乞に行くや埴生の小屋を出て	雨乞	人事
10469	昭和3年	夏の部	雨乞に根々の神の名呼び申す	雨乞	人事
10471	昭和3年	夏の部	羅や王母が袖にかくすもの	羅	人事
10597	不詳	夏の部	松のこと雲のこと其の時鳥	時鳥	動物
10608	不詳	夏の部	斯の道の末枯瓜に水灌げ	末枯瓜	植物

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
9236	大正12年	秋の部	秋立つか雲の音聞け山の上	立秋	時候
9240	大正12年	秋の部	夜嵐や魂棚更けて灯孤ツ	魂祭	人事
9241	大正12年	秋の部	虫食ひの鬼灯悲し魂祭	魂祭	人事
9242	大正12年	秋の部	みそはぎをこぼして魂の去りけらし	魂祭	人事
9243	大正12年	秋の部	魂棚や夜の間にからぶ蓮の飯	魂祭	人事
9244	大正12年	秋の部	草花の數をつくして魂まつり	魂祭	人事
9245	大正12年	秋の部	つゆけしや人を送りて無言なる	露	天文
9246	大正12年	秋の部	一行の元氣朝つゆ乱れ散る	露	天文
9247	大正12年	秋の部	白露の中や朝鷄追ひ放す	露	天文
9248	大正12年	秋の部	白露や昨日終へたる庵曝書	露	天文
9250	大正12年	秋の部	新涼に苔を掃へり頌徳碑	新涼	時候
9251	大正12年	秋の部	新涼にもものゝ二葉の生れけり	新涼	時候
9253	大正12年	秋の部	美人前にあり稻妻頻り也	稻妻	天文
9254	大正12年	秋の部	登山より歸る水村秋めきて	秋めく	時候
9255	大正12年	秋の部	貴人の登山遠雷畏けれ	登山	人事
9256	大正12年	秋の部	登山案内己が稗田に徑して	登山	人事
9257	大正12年	秋の部	素顔吹く霧や登山の女馬士	登山	人事
9258	大正12年	秋の部	登山宿の軒の草偃す嵐哉	登山	人事
9259	大正12年	秋の部	扇白く登山の客の逗留す	登山	人事
9260	大正12年	秋の部	登山元氣朝つゆ降らず澗葉樹	登山	人事
9261	大正12年	秋の部	登山戻れば灯笼ほのか草の宿	登山	人事
9262	大正12年	秋の部	七星斜なり登山のかしま立	登山	人事
9263	大正12年	秋の部	合歡花登山の便りに到りけり	合歡の花	植物
9265	大正12年	秋の部	秋風にふれてこぼれぬ露もなし	秋の風	天文
9266	大正12年	秋の部	秋風の吹くがまゝ也草も木も	秋の風	天文
9267	大正12年	秋の部	筆を輟めて栗ひく鼠聞きすます	栗	植物
9269	大正12年	秋の部	桐落葉踏んで大地を鳴らし去る	桐一葉	植物
9271	大正12年	秋の部	この程の忌日子規庵無事なりき	子規忌	人事
9273	大正12年	秋の部	柿くひし佛を偲ぶ物の本	柿	植物
9274	大正12年	秋の部	枝柿到來婆婆と疊の上に置く	柿	植物
9275	大正12年	秋の部	山盛りの柿くひつくす天高し	柿	植物
9276	大正12年	秋の部	柿くうて家を辞すれば風の吹く	柿	植物
9277	大正12年	秋の部	消息に酬いて柿の句を贈る	柿	植物
9278	大正12年	秋の部	秋晴の光の中の羽虫哉	秋晴	天文
9279	大正12年	秋の部	秋晴に羽たゝいて洲の鳥のみる	秋晴	天文
9280	大正12年	秋の部	秋晴や松の鱗の片照りも	秋晴	天文
9281	大正12年	秋の部	秋晴に芒ともしく光りけり	秋晴	天文
9282	大正12年	秋の部	秋晴の夕となりし翠微哉	秋晴	天文
9284	大正12年	秋の部	網し得て夜寒に鯉の大ききよ	夜寒	時候
9285	大正12年	秋の部	旅路の事語りつゞけて夜寒哉	夜寒	時候
9286	大正12年	秋の部	萬巻の書に埋もれけり夜寒の灯	夜寒	時候
9287	大正12年	秋の部	夜寒の座を占め得たり庵の大硯	夜寒	時候
9288	大正12年	秋の部	二三人夜寒の灯かげ句を作る	夜寒	時候
9413	大正13年	秋の部	新涼や水を愛して水草も	新涼	時候
9414	大正13年	秋の部	新涼や色濃かに深山艸	新涼	時候
9415	大正13年	秋の部	新涼やしばらく潜む魚の子ら	新涼	時候
9416	大正13年	秋の部	千生の未生の秋も涼しげに	新涼	時候
9417	大正13年	秋の部	新涼の流れて星の疎なる	新涼	時候

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
9419	大正13年	秋の部	白扇や瀑布見にまかる木下道	扇	人事
9421	大正13年	秋の部	巖踏んで宿にかへり來百合花	百合	植物
9422	大正13年	秋の部	似タリ貝露と尾花のいさかひも	雑	雑
9423	大正13年	秋の部	鮑採の嘯岩に振ふかな	鮑	動物
9424	大正13年	秋の部	岩館の岩より起る秋の風	秋の風	天文
9425	大正13年	秋の部	旅今宵潮虫も鳴け宿の庭	蟲	動物
9426	大正13年	秋の部	四五人の踊に磯の香のたちぬ	踊	人事
9430	大正13年	秋の部	今朝の秋又青山と一拶す	今朝の秋	時候
9432	大正13年	秋の部	秋の草の千くさの中の穂長艸	秋の草	植物
9434	大正13年	秋の部	星まつる一むら萩をよるべ哉	七夕	人事
9435	大正13年	秋の部	秋風の山おろし來つ古簾	秋の風	天文
9437	大正13年	秋の部	磯の宿に名残の幘や濤の音	秋の蚊帳	人事
9438	大正13年	秋の部	月の瀾われて碎けて千々の秋	秋	時候
9439	大正13年	秋の部	秋風に吹かれて輕し漁り舟	秋の風	天文
9440	大正13年	秋の部	秋晴の海に入りけり山の裾	秋晴	天文
9442	大正13年	秋の部	道の友南北よりす秋の風	秋の風	天文
9443	大正13年	秋の部	秋風の中に一人や松に倚る	秋の風	天文
9444	大正13年	秋の部	高館に遊びて久し置扇	秋扇	人事
9445	大正13年	秋の部	置扇子が草花をむしり來る	秋扇	人事
9446	大正13年	秋の部	嵐吹いて尚棚に在る南瓜哉	南瓜	植物
9447	大正13年	秋の部	秋風や水急にして帆掛舟	秋の風	天文
9448	大正13年	秋の部	閑話柄主人が座右の南瓜哉	南瓜	植物
9449	大正13年	秋の部	事もなげに隣家南瓜を贈來る	南瓜	植物
9450	大正13年	秋の部	贈られし南瓜に何を酬いんか	南瓜	植物
9451	大正13年	秋の部	扇置くや壞古の作の未定稿	秋扇	人事
9453	大正13年	秋の部	供物くさゞ主人が足しぬ秋海棠	秋海棠	植物
9454	大正13年	秋の部	畑に出て月待ち得たる薄衣哉	月	天文
9455	大正13年	秋の部	月今し客の面を照しけり	月	天文
9456	大正13年	秋の部	書卷積みし方の小暗き月夜哉	月	天文
9457	大正13年	秋の部	穂芒の灯影無月の記を艸す	無月	天文
9458	大正13年	秋の部	頑に句を罵りぬ鶏頭花	鶏頭	植物
9460	大正13年	秋の部	人遠き思ひ夜寒に朝寒に	雑	雑
9462	大正13年	秋の部	皆人の顔色動く秋の風	秋の風	天文
9464	大正13年	秋の部	耳にとき樹間の聲や秋の風	秋の風	天文
9467	大正13年	秋の部	四五人を北へ送りぬ草紅葉	草錦	植物
9468	大正13年	秋の部	幾日ちる柳ぞ曇つゞく日ぞ	柳散る	植物
9591	大正14年	秋の部	白き花折持ちて蝸の谿	蝸	動物
9593	大正14年	秋の部	北を指せば東に聳ゆ雲の峰	雲の峰	天文
9594	大正14年	秋の部	霧蒼し北門こゝに開けたり	霧	天文
9596	大正14年	秋の部	石露はれて河骨の細々と	河骨	植物
9597	大正14年	秋の部	青葡萄熊に非ずバ何通ふ	青葡萄	植物
9598	大正14年	秋の部	露けしや昔の蝦夷の足跡も	露	天文
9599	大正14年	秋の部	羊蹄山端山裾山霧の降る	霧	天文
9600	大正14年	秋の部	夏霧に喬木の葡萄滴りぬ	夏霧	天文
9601	大正14年	秋の部	明日立たん旅の宿天の川淡し	天の川	天文
9602	大正14年	秋の部	北を限る國の旅寝や天の川	天の川	天文
9603	大正14年	秋の部	蝦夷人の笹の軒端や天の川	天の川	天文
9605	大正14年	秋の部	定山の魂も祭らず鴉啼く	魂祭	人事

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
9607	大正14年	秋の部	言葉を残し去る唐葵の花の中	立葵	植物
9608	大正14年	秋の部	秋立つと目に白樺の白さ哉	立秋	時候
9609	大正14年	秋の部	今朝秋や耳にあやしき駅路の名	今朝の秋	時候
9610	大正14年	秋の部	峰の木々秋立つ容つくり哉	立秋	時候
9613	大正14年	秋の部	奥蝦夷や樹海の果の女郎花	女郎花	植物
9617	大正14年	秋の部	花豆や砂に相撲へる蝦夷の子ら	角力	人事
9618	大正14年	秋の部	山にハ山の草花折りぬほつ / \と	草花	植物
9619	大正14年	秋の部	足に灌げ山の眞清水薬なる	清水	地理
9620	大正14年	秋の部	海山や知らぬ國なる女郎花	女郎花	植物
9621	大正14年	秋の部	蝦夷近し海風に偃す女郎花	女郎花	植物
9623	大正14年	秋の部	虫聲々筆の穂艸の細かに	蟲	動物
9625	大正14年	秋の部	膝を撃ちて蚊火の烟の中にあり	蚊遣	人事
9626	大正14年	秋の部	東北へ斜に南瓜棚作る	南瓜	植物
9627	大正14年	秋の部	庭草をくゞる嵐や茗荷の子	茗荷の子	植物
9628	大正14年	秋の部	秋風や壁にはためく書一軸	秋の風	天文
9630	大正14年	秋の部	はぎすゝきそも山男山女	雑	雑
9632	大正14年	秋の部	夜嵐や無月の欄の花すゝき	無月	天文
9633	大正14年	秋の部	果落す栗鼠を憎みて吟哦哉	木の實	植物
9635	大正14年	秋の部	天さかる鄙少女野菊たてまつれ	野菊	植物
9636	大正14年	秋の部	杉の里の夜寒畏し御火焚ら	夜寒	時候
9638	大正14年	秋の部	果敢なさは無月の詩筆措きもあへず	無月	天文
9640	大正14年	秋の部	雨を避くる物かげもなし草錦	草錦	植物
9641	大正14年	秋の部	松の里芙蓉の家や雨宿り	芙蓉	植物
9643	大正14年	秋の部	日中暖に眞垣の菊に倚り	菊	植物
9645	大正14年	秋の部	菊長短南山常の如くにて	菊	植物
9799	大正15年	秋の部	など斯くは蛸早き今年ぞも	蛸	動物
9801	大正15年	秋の部	燈火親し草の葉ずれを耳の底	燈火親し	人事
9802	大正15年	秋の部	燈火親し大空の覆ふ夜にして	燈火親し	人事
9803	大正15年	秋の部	庭の虫燈火親しと鳴出けむ	燈火親し	人事
9804	大正15年	秋の部	燈に親み山奥の湯に居残りぬ	燈火親し	人事
9805	大正15年	秋の部	秋の燈や端居になれて草の色	秋の灯	人事
9807	大正15年	秋の部	濱草の秋咲く花に暑さ哉	草花	植物
9808	大正15年	秋の部	合歡咲いて象潟近し旅心	合歡の花	植物
9809	大正15年	秋の部	三郡の水平かに稲の花	稲の花	植物
9810	大正15年	秋の部	秋の雲海の碧に影落す	秋の雲	天文
9811	大正15年	秋の部	白砂ふむ墓辺の道や合歡花	合歡の花	植物
9812	大正15年	秋の部	君が星臣が星宵々の秋	秋の宵	時候
9813	大正15年	秋の部	浦波に足ぬらし來つ胡麻の花	胡麻の花	植物
9814	大正15年	秋の部	白銀の翅も秋や浪千鳥	秋	時候
9815	大正15年	秋の部	三昧より起ちてか蚤を振ひけむ	蚤	動物
9816	大正15年	秋の部	樹の奥の鳩啼止めバ露の音	露	天文
9817	大正15年	秋の部	妙音朗々大竹原をもるも秋	秋	時候
9818	大正15年	秋の部	海明けぬいづこきのふの天の川	天の川	天文
9819	大正15年	秋の部	岩清水帰路一掬の名残哉	清水	地理
9821	大正15年	秋の部	魂棚にみそなはすらむ旅衣	魂祭	人事
9822	大正15年	秋の部	魂棚の灯に参り會ふ旅路哉	魂祭	人事
9823	大正15年	秋の部	魂まつる越路の穂草見てすぎぬ	魂祭	人事
9824	大正15年	秋の部	魂祭宵月に立つ人の影	魂祭	人事



No.	作句年	部	俳句	季語	分類
9825	大正15年	秋の部	魂棚の灯をつぎ足しぬ獨居て	魂祭	人事
9826	大正15年	秋の部	樹石皆神あるにつく / \ 法師	つくつく法師	動物
9827	大正15年	秋の部	幾秋の泉を旅の鏡哉	秋	時候
9828	大正15年	秋の部	遺墨かず / \ 西瓜の記事ハなかりけり	西瓜	植物
9829	大正15年	秋の部	朝兒のつゆに別を急ぎけり	朝顔	植物
9831	大正15年	秋の部	西東と釣りぬ大きな蝸ニツ	蚊帳	人事
9832	大正15年	秋の部	あはたゞしくかたみにくゞる蝸の裾	蚊帳	人事
9833	大正15年	秋の部	杯を置けバ鳩啼く別哉	鳩	動物
9835	大正15年	秋の部	鄙めきて百日紅咲く畏けれ	百日紅	植物
9836	大正15年	秋の部	蝸に何まどふべき物もなし	蝸	動物
9837	大正15年	秋の部	うき我にくれし林檎の小粒なる	林檎	植物
9838	大正15年	秋の部	黄金掘る山瘠せにけり花芒	芒	植物
9839	大正15年	秋の部	昔人ひたすがりけむ葛の花	葛の花	植物
9840	大正15年	秋の部	岩清水誰が俳腸をしぼりけむ	清水	地理
9842	大正15年	秋の部	岩根冷し鱒雲を呼ばふらん	鱒	動物
9843	大正15年	秋の部	盆休磯ハ磯草の花盛	盆休	人事
9845	大正15年	秋の部	青山やかさねて嗽ぐ水の秋	秋の水	地理
9846	大正15年	秋の部	みるかつぐ蟹少女夜踊るなり	踊	人事
9847	大正15年	秋の部	禅院の流れ水蝸の鳴く	蝸	動物
9848	大正15年	秋の部	木々開山が手栽らし蜻蛉とぶ	蜻蛉	動物
9849	大正15年	秋の部	滝道の喬木とんぼ飛び断えし	蜻蛉	動物
9850	大正15年	秋の部	磯馴松蜻蛉ハ町へ吹かれけり	蜻蛉	動物
9851	大正15年	秋の部	昼もうつ踊の太鼓とんぼ飛ぶ	蜻蛉	動物
9852	大正15年	秋の部	山際に蜻蛉とぶ見ゆ海平ラ	蜻蛉	動物
9854	大正15年	秋の部	これを喰ふ両三顆天爽かに	爽か	時候
9856	大正15年	秋の部	呱呱の聲あり千里さはやかに	爽か	時候
9858	大正15年	秋の部	女郎花よりか萩より芒へか	雑	雑
9860	大正15年	秋の部	萩の花咲の盛りや小酒盛	萩	植物
9862	大正15年	秋の部	稻妻や聳ゆるまゝに一の山	稻妻	天文
9864	大正15年	秋の部	秋風にくちゆくものゝ哀しさよ	秋の風	天文
9865	大正15年	秋の部	馬肥ゆる楽しさ萩の二番刈	馬肥ゆる	動物
9866	大正15年	秋の部	馬肥えて牧の秋風日たゞ吹く	馬肥ゆる	動物
9867	大正15年	秋の部	一峽の葛喰ひつくし馬肥ゆる	馬肥ゆる	動物
9868	大正15年	秋の部	ほと / \ と葉つゆ穂つゆや馬肥えし	馬肥ゆる	動物
9869	大正15年	秋の部	秋風や牽く駒肥えし不破の関	馬肥ゆる	動物
9871	大正15年	秋の部	黍は稈に立ついづこ魂遊ぶ	唐黍	植物
9873	大正15年	秋の部	萩に行かむ芒に來よと忙しさ	雑	雑
9875	大正15年	秋の部	つゆしぐれ鶉の床をみだしけむ	露しぐれ	天文
9876	大正15年	秋の部	翁さびて唐辛子干す日ありけり	唐辛子	植物
9877	大正15年	秋の部	礪礪の土悲しさよ唐辛子	唐辛子	植物
9878	大正15年	秋の部	鎌倉や畑一ところ唐辛子	唐辛子	植物
9879	大正15年	秋の部	棒喝の唐辛子煮る違哉	唐辛子	植物
9880	大正15年	秋の部	山畑や引残されし唐辛子	唐辛子	植物
9882	大正15年	秋の部	草花の種採りに出つ風の中	草花の種	植物
9883	大正15年	秋の部	草花の種こぼれたり草の老	草花の種	植物
9884	大正15年	秋の部	草花の種ぞ穂末に残りける	草花の種	植物
9885	大正15年	秋の部	草花の種小粒なり日の秋に	草花の種	植物
9886	大正15年	秋の部	草花の種の光や秋の風	草花の種	植物

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
9887	大正15年	秋の部	草花の種が飛ぶなり風の中	草花の種	植物
9889	大正15年	秋の部	秋の海深く行きけむ鱈廣に	秋の海	地理
9890	大正15年	秋の部	ホキと折れて手柴引かれぬ秋の風	手柴引	人事
9891	大正15年	秋の部	手柴引けバ蔓も断たれて秋の風	手柴引	人事
9892	大正15年	秋の部	手柴引けバ瓜の末生絡まりぬ	手柴引	人事
9893	大正15年	秋の部	手柴引く蔓の下草つゆけさよ	手柴引	人事
9894	大正15年	秋の部	手柴引く因みに仆す黍の稈	手柴引	人事
9896	大正15年	秋の部	むかし男今もこそ居れ鳩吹いて	鳩吹く	人事
9898	大正15年	秋の部	菊の花耀くばかり酒微醺	菊	植物
9900	大正15年	秋の部	酒壺のあたり紅葉の二三片	紅葉	植物
9901	大正15年	秋の部	したみつくす瓢の酒や紅葉寒	紅葉	植物
9902	大正15年	秋の部	荒がねの毒と流るゝ紅葉哉	紅葉	植物
9903	大正15年	秋の部	紅葉折りて心晩帰を急ぎけり	紅葉	植物
10109	昭和2年	秋の部	はらからの迎火に袖翻へす	迎火	人事
10110	昭和2年	秋の部	送火のかたばかり絆がら白々と	送火	人事
10111	昭和2年	秋の部	迎火や灯籠已にともりある	迎火	人事
10112	昭和2年	秋の部	送火や門辺の塵の露じめり	送火	人事
10113	昭和2年	秋の部	送火や潮の八百路の磯の宿	送火	人事
10114	昭和2年	秋の部	迎火や尚ひぐらしの一しきり	迎火	人事
10115	昭和2年	秋の部	樹藪蒼送火の烟消えにつゝ	送火	人事
10117	昭和2年	秋の部	客あり跋涉し來る今朝の秋	今朝の秋	時候
10118	昭和2年	秋の部	夜の蟬しば / \ 鳴くも寂しからむ	蟬	動物
10119	昭和2年	秋の部	君ありとなどか知るべき虫の聲	蟲	動物
10120	昭和2年	秋の部	只是の如し夕餐と蝸と	蝸	動物
10121	昭和2年	秋の部	夕を咲く花に行く / \ 里清水	清水	地理
10122	昭和2年	秋の部	遠き母に文かく野分吹やまず	野分	天文
10123	昭和2年	秋の部	朝兒の咲きあへず野分吹つる	野分	天文
10124	昭和2年	秋の部	野分吹て瀧道とざす草の丈	野分	天文
10125	昭和2年	秋の部	尚鳴くよ野分の底の虫一ツ	蟲	動物
10126	昭和2年	秋の部	関守に片われ月や野分ふく	野分	天文
10127	昭和2年	秋の部	雲折々山の瘤掃く野分哉	野分	天文
10128	昭和2年	秋の部	山畑や野分にたへて小百姓	野分	天文
10129	昭和2年	秋の部	母に文す野分の灯明らけく	野分	天文
10130	昭和2年	秋の部	名月の雲の黒さよ明るさよ	名月	天文
10131	昭和2年	秋の部	月今宵雲の深さを欄に倚る	月	天文
10132	昭和2年	秋の部	獨居を荒野の思月の雲	月	天文
10134	昭和2年	秋の部	紙魚はたきつくさず已に癩祭忌	子規忌	人事
10135	昭和2年	秋の部	秋といふたましひ木の実草の花	雑	雑
10136	昭和2年	秋の部	日に三たび絲瓜の老を省る	糸瓜	植物
10137	昭和2年	秋の部	山寺ハ蓮の青さに書を曝す	蟲干	人事
10138	昭和2年	秋の部	鯊釣の子等を停めて事問ひぬ	鯊釣	人事
10139	昭和2年	秋の部	鯊釣の子等にまじりて徑ゆく	鯊釣	人事
10141	昭和2年	秋の部	大木とならん相やつゆしぐれ	露しぐれ	天文
10143	昭和2年	秋の部	廬浅く秋風吹かぬ隈もなし	秋の風	天文
10144	昭和2年	秋の部	草の花木の實秋てふ魂か	雑	雑
10146	昭和2年	秋の部	一峰を前に後へに木子狩	茸狩	人事
10147	昭和2年	秋の部	籃の中木子乏しみ蜻蛉とぶ	茸	植物
10148	昭和2年	秋の部	遠く來つる海辺の人よ木子狩	茸狩	人事

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
10149	昭和2年	秋の部	雑茸の群がり起る端山哉	茸	植物
10150	昭和2年	秋の部	茸狩やさ霧に起きて朝餉	茸狩	人事
10151	昭和2年	秋の部	茸もなき芒の岡に上りけり	茸	植物
10152	昭和2年	秋の部	白魚を膾に花野遊哉	花野	地理
10153	昭和2年	秋の部	大海の魚を膾や花野酒	花野	地理
10154	昭和2年	秋の部	家につとに秋野の花や晴三里	花野	地理
10155	昭和2年	秋の部	水澄めるあたり菌老にけり	茸	植物
10156	昭和2年	秋の部	茸狩に疲れし夢や松青き	茸狩	人事
10157	昭和2年	秋の部	茸狩の頭挙ぐれば雲赤し	茸狩	人事
10158	昭和2年	秋の部	山果幾たび落つる夜長哉	夜長	時候
10159	昭和2年	秋の部	山寺や夜長に起きて栗鼠を追ふ	夜長	時候
10160	昭和2年	秋の部	長き夜のつもりて鬢の白さ哉	夜長	時候
10161	昭和2年	秋の部	古柳長々し夜を垂にけり	夜長	時候
10162	昭和2年	秋の部	反故ちるに夜長の膝を容にけり	夜長	時候
10473	昭和3年	秋の部	蓮咲くや松ハ懶き朝まだき	蓮	植物
10475	昭和3年	秋の部	背水の勢に在る案山子哉	案山子	人事
10477	昭和3年	秋の部	誰が晝より拔出でし萩食み足らず	萩	植物
10479	昭和3年	秋の部	鮎川の石に馬蹄を轟かす	鮎	動物
10480	昭和3年	秋の部	鮎狩のかたらひすなり石の上	鮎釣	人事
10481	昭和3年	秋の部	鮎の知る水のまさりや峽一雨	鮎	動物
10482	昭和3年	秋の部	鮎を釣る故人の面や上つ瀬に	鮎釣	人事
10483	昭和3年	秋の部	君を訪へば年魚の瀬音の高まさる	鮎	動物
10484	昭和3年	秋の部	串削る年魚の七瀬の主ぶり	鮎	動物
10485	昭和3年	秋の部	魚肥えぬ萩の下つゆ繁きより	萩	植物
10486	昭和3年	秋の部	きり岸の芒の影や魚走る	芒	植物
10488	昭和3年	秋の部	吾馬の墓辺秋草食まんとす	秋の草	植物
10490	昭和3年	秋の部	墨の痕と泉の聲と今朝の秋	今朝の秋	時候
10492	昭和3年	秋の部	月日知らぬ岩に青蔦からみけり	青蔦	植物
10493	昭和3年	秋の部	天の川注がむ岩門開けたり	天の川	天文
10495	昭和3年	秋の部	芒原に道片寄りし花野哉	花野	地理
10496	昭和3年	秋の部	思ひあがり雀も飛べる花野哉	花野	地理
10497	昭和3年	秋の部	尚白し花野に曬す馬の骨	花野	地理
10498	昭和3年	秋の部	花野行く耳にきのふの峽の聲	花野	地理
10499	昭和3年	秋の部	ぬか星の幾つこぼれし花野哉	花野	地理
10501	昭和3年	秋の部	胸打さはぎ葛吹く風止まず	葛	植物
10503	昭和3年	秋の部	聞説伽藍の内外秋の風	秋の風	天文
10505	昭和3年	秋の部	虫の音を文にもつゞれ旅せめて	蟲	動物
10506	昭和3年	秋の部	むし各常の夜の如鳴にけり	蟲	動物
10507	昭和3年	秋の部	鳴く虫を愛ずるに蛙こわ高な	蟲	動物
10508	昭和3年	秋の部	天と高く地と低しや蟲の聲	蟲	動物
10596	不詳	秋の部	山中の秋意や故人勘破の言	秋意	人事
10598	不詳	秋の部	先たゝ遅れじとすや茸取り	茸	植物
10599	不詳	秋の部	蟲鳴けば蟲聞く人に蛙かな	蟲	動物
10600	不詳	秋の部	雲の峯消えて蟲鳴く野となりぬ	蟲	動物
10601	不詳	秋の部	雲間月あり蟲鳴きやまず	蟲	動物
10607	不詳	秋の部	よそほひや萩を見に出る女づれ	萩	植物

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
9129	大正12年	冬の部	枯れ / \し藪や茨の実生きてあり	枯茨	植物
9130	大正12年	冬の部	叫ぶものに皆いのちある吹雪哉	吹雪	天文
9131	大正12年	冬の部	冬川を渡らんと思ふ狐哉	冬川	天文
9132	大正12年	冬の部	冬川を偶々過ぎし雀かな	冬川	天文
9133	大正12年	冬の部	冬川に何する人と鴉かな	冬川	天文
9134	大正12年	冬の部	煙揚げて凧の日を山仕事	凧	天文
9135	大正12年	冬の部	一軸の外凧や茶味禅味	凧	天文
9136	大正12年	冬の部	凧の風ぎて不斷の泉哉	凧	天文
9137	大正12年	冬の部	凧の中にいさかふ小者哉	凧	天文
9138	大正12年	冬の部	凧の響き渡りぬ寺林	凧	天文
9139	大正12年	冬の部	凧に生きて届きし海峯哉	凧	天文
9140	大正12年	冬の部	凧や寺に寄合ふ小作人	凧	天文
9141	大正12年	冬の部	凧や馬を犒ふ小百姓	凧	天文
9142	大正12年	冬の部	凧や馬引き返る年貢人	凧	天文
9143	大正12年	冬の部	凧の中に尚在り賣茶翁	凧	天文
9144	大正12年	冬の部	凧や火明り断えぬ一部落	凧	天文
9145	大正12年	冬の部	凧に木つゝく鳥の忙がしき	凧	天文
9146	大正12年	冬の部	凧に物貯へむ土掘りつ	凧	天文
9147	大正12年	冬の部	飢鳥枝に犯さんと欲す氷餅	氷餅	人事
9148	大正12年	冬の部	梅槎枒たり軒に聯ねし氷餅	氷餅	人事
9149	大正12年	冬の部	氷餅初更の水を出にけり	氷餅	人事
9151	大正12年	冬の部	雪皎々この一ところ塵もなし	雪	天文
9152	大正12年	冬の部	雪積みて黄泉いよゝ遠きかな	雪	天文
9154	大正12年	冬の部	筆凍てゝ今はた消えし面影よ	凍る	天文
9155	大正12年	冬の部	墓邊護る冬木の枝の細々と	冬木	植物
9156	大正12年	冬の部	寒ン晴に藪下水の光かな	寒晴	天文
9157	大正12年	冬の部	手に在りて鋸鈍き寒さかな	寒さ	時候
9158	大正12年	冬の部	雪雲の又しも我にかぶさりぬ	雪	天文
9159	大正12年	冬の部	雪の山深く入にし獵夫かな	雪山	天文
9160	大正12年	冬の部	鬣の雪揮ひけり廢口	雪	天文
9161	大正12年	冬の部	一方に照返す日や雪戰	雪遊び	人事
9162	大正12年	冬の部	雪に伏す竹や夜学の小提灯	雪	天文
9163	大正12年	冬の部	大雪の門辺煤日のはした女等	雪	天文
9164	大正12年	冬の部	庭椿の雪すべり落つ日の匂ひ	雪	天文
9165	大正12年	冬の部	雪堅し杉の下道社まで	雪	天文
9166	大正12年	冬の部	雪の暮何に宿らむ小禽哉	雪	天文
9167	大正12年	冬の部	家雪にうもれて午の鶏鳴きぬ	雪	天文
9168	大正12年	冬の部	薄雪の足痕よべの千鳥かな	雪	天文
9292	大正12年	冬の部	時雨めきて菊の葉ぬらすあまたゝび	時雨	天文
9294	大正12年	冬の部	大根引く里川木葉流るゝに	大根引	人事
9295	大正12年	冬の部	菊未だ枯れず大根引く庵よ	大根引	人事
9296	大正12年	冬の部	洗上げて大根月夜となりけり	大根	植物
9297	大正12年	冬の部	暮雲紅し大根引かれし畠の上	大根引	人事
9298	大正12年	冬の部	風呂吹と僧に乞はれつ大根引	大根引	人事
9299	大正12年	冬の部	金福寺句座の人見ゆ大根引	大根引	人事
9300	大正12年	冬の部	門外に大根の馬を駐めけり	大根	植物
9301	大正12年	冬の部	寺庭に年貢の大根積にけり	大根	植物
9302	大正12年	冬の部	路の邊の芒も刈りぬ大根引	大根引	人事

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
9303	大正12年	冬の部	大根引く我参勤のお大名	大根引	人事
9305	大正12年	冬の部	短日の舟寄るべなき大河哉	短日	時候
9306	大正12年	冬の部	筆硯匆々枯菊を顧みず	枯菊	植物
9307	大正12年	冬の部	枯菊の雨も乾かず暮にけり	枯菊	植物
9308	大正12年	冬の部	古松を便りに住むや菊枯るゝ	枯菊	植物
9309	大正12年	冬の部	枯菊の小家出でゆく獵夫哉	枯菊	植物
9310	大正12年	冬の部	枯菊を刈て書齋に退きぬ	枯菊	植物
9311	大正12年	冬の部	短日や馬に賃して曠野ゆく	短日	時候
9312	大正12年	冬の部	短日の山の尖りの雲明かき	短日	時候
9313	大正12年	冬の部	短日や例の刻來る郵便夫	短日	時候
9314	大正12年	冬の部	暮早し枯木の中の人の聲	短日	時候
9315	大正12年	冬の部	大根畑見渡せば富士眞白なり	大根	植物
9317	大正12年	冬の部	蕪の神大根の神や神謀り	雑	雑
9326	大正13年	冬の部	このたびの果しも知らず冬日哉	冬の日	時候
9328	大正13年	冬の部	いへぬちに溢るゝ聲や雪の上	雪	天文
9330	大正13年	冬の部	日當れば冬木に倚らむ思哉	冬木	植物
9331	大正13年	冬の部	などでこの涙凍らんひまも無き	凍る	天文
9332	大正13年	冬の部	その跡を追へども雪の果もなき	雪	天文
9334	大正13年	冬の部	早梅のそらだきものや御文筥	早梅	植物
9335	大正13年	冬の部	鳳笙鸞竿み空の霜に振ひけり	霜	天文
9470	大正13年	冬の部	冬嶺を看るに忍びず秀孤松	冬山	天文
9471	大正13年	冬の部	筐底をさぐりつくしぬ小夜しぐれ	時雨	天文
9472	大正13年	冬の部	例年の男傭うて冬構	冬構	人事
9475	大正13年	冬の部	凍蝶も知章が馬に舞出でぬ	凍蝶	動物
9476	大正13年	冬の部	冬ごもり硯の田地たのもしき	冬籠	人事
9478	大正13年	冬の部	此寒さ不識といふぞ愚なる	寒さ	時候
9480	大正13年	冬の部	補陀落の岸か浪路か小夜千鳥	千鳥	動物
9481	大正13年	冬の部	画幅もちて濡れじと人來しぐるゝ日	時雨	天文
9483	大正13年	冬の部	大儒迎ふ綴の錦京しぐれ	時雨	天文
9485	大正13年	冬の部	石玄黄几上霜見る冬籠	冬籠	人事
9486	大正13年	冬の部	樹の枝の雪ちる中や朝の人	雪	天文
9497	大正14年	冬の部	古妻の暇あれや輝藥貼る	鞞	人事
9499	大正14年	冬の部	筆法に似たるものなし冬木立	冬木	植物
9500	大正14年	冬の部	折ふしの雀も寒の名残哉	寒	時候
9502	大正14年	冬の部	顧みて又冬川を越ゆらんか	冬川	天文
9503	大正14年	冬の部	雪穴に陥りしこそ不覚なれ	雪	天文
9505	大正14年	冬の部	雪ふりやまず梅の花に寒からむ	雪	天文
9507	大正14年	冬の部	梅も咲かねど適く所あり鶴に騎る	鶴	動物
9647	大正14年	冬の部	落葉二ツ廿年の情百里の感	落葉	植物
9649	大正14年	冬の部	手應への重さ軽さや莖の石	莖漬	人事
9651	大正14年	冬の部	枯野行く / \ 馬の蹄の高鳴に	枯野	天文
9652	大正14年	冬の部	風吹いて我を露はに枯野哉	枯野	天文
9653	大正14年	冬の部	北風を避くべきもなし馬の上	北風	天文
9655	大正14年	冬の部	むらしぐれ幾たび馬の躓きぬ	時雨	天文
9656	大正14年	冬の部	うつむきてしぐるゝまゝや馬の上	時雨	天文
9657	大正14年	冬の部	我馬や伏屋の落葉踏鳴らす	落葉	植物
9658	大正14年	冬の部	游草の悪句刪らむ年忘	年忘	人事
9661	大正14年	冬の部	數知れぬ落葉の中の二片か	落葉	植物

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
9662	大正14年	冬の部	墓石に雨と降りけむ落葉是	落葉	植物
9671	大正15年	冬の部	冬の水いづち潜りて流れゆく	冬の水	天文
9673	大正15年	冬の部	蝶鳥の間静かに追儼	追儼	人事
9675	大正15年	冬の部	雪深しこの一筋の道祖神	雪	天文
9676	大正15年	冬の部	杉村の家々はたきをり煤筵	煤拂	人事
9677	大正15年	冬の部	杉村や黛つくる雪の山	雪山	天文
9678	大正15年	冬の部	大川の岸高み煤はたきをり	煤拂	人事
9679	大正15年	冬の部	煤はたく音大川を渡りくる	煤拂	人事
9905	大正15年	冬の部	紅葉ちりて菊の高さに廬せり	散紅葉	植物
9907	大正15年	冬の部	巖角や霜に嘯く帟の鬚	霜	天文
9908	大正15年	冬の部	人待てバ芒ちる見ゆ日短に	短日	時候
9909	大正15年	冬の部	時ならぬ砧打出す日短に	短日	時候
9910	大正15年	冬の部	短日や搗きこぼしたる畑つ物	短日	時候
9911	大正15年	冬の部	短日や賣れて乏しき唐辛子	短日	時候
9912	大正15年	冬の部	海山の風北になり暮急ぐ	短日	時候
9914	大正15年	冬の部	達磨忌の一時猛雨の人絶えし	達磨忌	人事
9916	大正15年	冬の部	庭上の霜に傲るハ何々ぞ	霜	天文
9917	大正15年	冬の部	凧や倉廩満ちて人往來	凧	天文
9918	大正15年	冬の部	凧や脂がゝりし魚の味	凧	天文
9919	大正15年	冬の部	凧や京のくさびら遅れつく	凧	天文
9920	大正15年	冬の部	凧の庵を見せけり裏の山	凧	天文
9921	大正15年	冬の部	凧に陵荒るゝ涙かな	凧	天文
9922	大正15年	冬の部	凧や木葉の下の硯石	凧	天文
9923	大正15年	冬の部	凧や狸のわざの水止まる	凧	天文
9924	大正15年	冬の部	凧に膝つき合はず庵淺し	凧	天文
9925	大正15年	冬の部	凧や銀杏葉溜る一ト所	凧	天文
9926	大正15年	冬の部	凧に紙一帖の使かな	凧	天文
9927	大正15年	冬の部	到來の五升の酒も冬構	冬構	人事
9928	大正15年	冬の部	思ひきや芋山の如し冬構	冬構	人事
9929	大正15年	冬の部	佗ぶらくハ嵐と住まん冬構	冬構	人事
9930	大正15年	冬の部	冬構梅の古木ハ与からず	冬構	人事
9931	大正15年	冬の部	我庵ハ冬を構へず山河在り	冬構	人事
9933	大正15年	冬の部	夢なれや天地に盈つる河豚の氣	河豚	動物
9935	大正15年	冬の部	凧に水の甘さを覚ゆらむ	凧	天文
9939	大正15年	冬の部	凧や家に居て柚子の包解く	凧	天文
9940	大正15年	冬の部	凧を遠く至りぬ柚子も葉も	凧	天文
9942	大正15年	冬の部	ふぐ汁の父の獨に灯しけり	河豚汁	人事
9943	大正15年	冬の部	河豚の眼や磯の社の常緑樹	河豚	動物
9944	大正15年	冬の部	河豚汁や窓の外行く紅毛人	河豚汁	人事
9945	大正15年	冬の部	河豚の座や果實が装ふ一緑葉	河豚	動物
9946	大正15年	冬の部	ふぐの友二たび三たび會しけり	河豚	動物
9948	大正15年	冬の部	大霜の後の菊觀し幾人ぞ	霜	天文
9949	大正15年	冬の部	只斯の心菊を枯れしめず	枯菊	植物
9950	大正15年	冬の部	用もなき曆買ふなり主人ぶり	曆売	人事
9954	昭和2年	冬の部	筆の穂の凍ることなき力哉	凍る	天文
9956	昭和2年	冬の部	ひたぶるに蹶はらゝかす深雪哉	雪	天文
9957	昭和2年	冬の部	朝な / \ 雪の淨らや島咽ぶ	雪	天文
9958	昭和2年	冬の部	春近し一雨に遷る鶴の群	春近し	時候

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
9959	昭和2年	冬の部	誰々に紅買ひやらむ春鄰	春近し	時候
9960	昭和2年	冬の部	芹かあらぬか春まちごゝろさゝ流れ	春待	時候
9961	昭和2年	冬の部	せゝらぎや春まちごゝろ芹を見る	春待	時候
9962	昭和2年	冬の部	ともしさのつとも春まつ帰省哉	春待	時候
9963	昭和2年	冬の部	日々消ぬる獸の踪や春鄰	春近し	時候
9965	昭和2年	冬の部	行年や追失ひし紙魚一ツ	行年	時候
9966	昭和2年	冬の部	行年や帙にうするゝはなだ色	行年	時候
9967	昭和2年	冬の部	水鳥の浮くも潜るも浄土哉	水鳥	動物
10164	昭和2年	冬の部	山眠る中に群松吼ゆる哉	山眠る	天文
10165	昭和2年	冬の部	百姓に教へて倦まず山眠る	山眠る	天文
10166	昭和2年	冬の部	昔ながらの山眠るさへ人戀し	山眠る	天文
10167	昭和2年	冬の部	渉らじのせみの小川や山眠る	山眠る	天文
10168	昭和2年	冬の部	鳩の湖は古き深さよ山眠る	山眠る	天文
10170	昭和2年	冬の部	魯細し鳥海の裏おろす風	魯	植物
10171	昭和2年	冬の部	山峽や枯れぬ尾花に家幾つ	芒	植物
10172	昭和2年	冬の部	霜の後の月岩山にかゝりけり	霜	天文
10173	昭和2年	冬の部	草枯や海士が墓皆海に向く	草枯	植物
10175	昭和2年	冬の部	短日をちり尽す沙羅双樹の葉	短日	時候
10176	昭和2年	冬の部	樅の実を啄む鳥もなかりけり	木の實	植物
10178	昭和2年	冬の部	鶏頭の種採ることを咎むるな	鶏頭	植物
10179	昭和2年	冬の部	詩仙堂に寄らで小春を帰洛哉	小春	時候
10181	昭和2年	冬の部	短日の風争ふや四派の松	短日	時候
10182	昭和2年	冬の部	朱の椀にすこし飯盛る霜夜哉	霜	天文
10183	昭和2年	冬の部	小春日の暮るゝに近し水煙	小春	時候
10184	昭和2年	冬の部	小春日や暮れて竹鳴る嵯峨戻り	小春	時候
10185	昭和2年	冬の部	花の種むさぼり採りぬ日の小春	小春	時候
10186	昭和2年	冬の部	小春日のつゞくらし宵々の月	小春	時候
10187	昭和2年	冬の部	進一步霜を挟まぬ石もなし	霜	天文
10188	昭和2年	冬の部	わうじきの調べや鐘の幾時雨	時雨	天文
10190	昭和2年	冬の部	菊昔ながら畿内の霞かな	菊	植物
10192	昭和2年	冬の部	数へ來る木菴即非茶の蕾	茶の花	植物
10193	昭和2年	冬の部	黄檗の道場冬の片日哉	冬	時候
10195	昭和2年	冬の部	かりそめに訪ふ旧蹟や日短き	短日	時候
10196	昭和2年	冬の部	短日や指僕へて國遠し	短日	時候
10197	昭和2年	冬の部	短日や誰ぞ下り來る大悲閣	短日	時候
10198	昭和2年	冬の部	短日や鷺の声悪み客の去る	短日	時候
10200	昭和2年	冬の部	短景に鳥を點ずる梢哉	雑	雑
10202	昭和2年	冬の部	帯解の子安に柿を奉る	柿	植物
10203	昭和2年	冬の部	片枝の紅葉さしいでつ吉野口	紅葉	植物
10204	昭和2年	冬の部	香具山の霧おろしけり青蜜柑	霧	天文
10205	昭和2年	冬の部	歌垣の昔を匂へ草の花	草花	植物
10207	昭和2年	冬の部	川波をくゞるは国栖の何落葉	落葉	植物
10209	昭和2年	冬の部	さながらに菊伏す山路間なき雨	菊	植物
10210	昭和2年	冬の部	濃かに野菊咲残る笠置道	野菊	植物
10211	昭和2年	冬の部	吉の山竹もしぐるゝ宿り哉	時雨	天文
10212	昭和2年	冬の部	太閤ハしくれを知らずよしの山	時雨	天文
10213	昭和2年	冬の部	炭ついでしくれに居りぬよしの山	時雨	天文
10214	昭和2年	冬の部	そのかみや珠も錦もしぐれつゝ	時雨	天文

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
10215	昭和2年	冬の部	旅の髭伸びぬ吉野はしぐれつゝ	時雨	天文
10217	昭和2年	冬の部	しぐれ来て提灯消えつ御陵道	時雨	天文
10218	昭和2年	冬の部	常盤木のしぐれ畏しよし野山	時雨	天文
10219	昭和2年	冬の部	一處落葉つもりぬよしの山	落葉	植物
10220	昭和2年	冬の部	陵やありとも見えぬしぐれの灯	時雨	天文
10222	昭和2年	冬の部	神ながら古りゆく神輿幾しぐれ	時雨	天文
10224	昭和2年	冬の部	とく / \ の清水を後に日短き	短日	時候
10226	昭和2年	冬の部	石はしる水よ落葉よ五百年	落葉	植物
10228	昭和2年	冬の部	壮士が鎧の塵か草紅葉	草錦	植物
10230	昭和2年	冬の部	子規の字の為山のと浪花夜寒なる	夜寒	時候
10232	昭和2年	冬の部	青に黄にお手々の蜜柑つぶらなる	蜜柑	植物
10233	昭和2年	冬の部	之にしあれや旅の夜寒の袖ふるゝ	夜寒	時候
10234	昭和2年	冬の部	吉野出て見はてぬ夢の千鳥哉	千鳥	動物
10236	昭和2年	冬の部	露霜の結ばむ草木無かりけり	露霜	天文
10237	昭和2年	冬の部	凧の石に留めず雲の影	凧	天文
10239	昭和2年	冬の部	牛祭すぎて戀しき三十年	牛祭	人事
10241	昭和2年	冬の部	ひし / \ と霜に鳴りけむ巨枝大葉	霜	天文
10245	昭和2年	冬の部	俗めくや落柿舎の柿落葉ふむ	柿落葉	植物
10247	昭和2年	冬の部	色紙へぎて後の寒さに誰かいる	寒さ	時候
10248	昭和2年	冬の部	旅に在りて何を主や嗟峨の月	月	天文
10249	昭和2年	冬の部	茶の花の咲き澄みて人知れずこそ	茶の花	植物
10251	昭和2年	冬の部	秋深し神馬も戀ふる五十鈴川	秋深し	時候
10252	昭和2年	冬の部	しだり尾の長鳴鳥や夕紅葉	紅葉	植物
10254	昭和2年	冬の部	糸瓜見る因みに憶ふ三十年	糸瓜	植物
10255	昭和2年	冬の部	雁來紅上野の森ハ見えざりけり	雁來紅	植物
10257	昭和2年	冬の部	木葉ふるや掃へども水そゝげども	木葉	植物
10259	昭和2年	冬の部	一勺の酒そゝぐべき落葉哉	落葉	植物
10261	昭和2年	冬の部	露ながら主人がくれし柿一ツ	柿	植物
10262	昭和2年	冬の部	むさし野の落葉掃かれぬ細々に	落葉	植物
10263	昭和2年	冬の部	常盤木や青きにひそむ烏瓜	烏瓜	植物
10264	昭和2年	冬の部	往返り柿落葉ふむ斯心	柿落葉	植物
10266	昭和2年	冬の部	木深さを鳴穿ち去る百舌の声	鶇	動物
10267	昭和2年	冬の部	衡宇を望んで落葉踏鳴らす	落葉	植物
10268	昭和2年	冬の部	帰り来て菊の香にあるしばし哉	菊	植物
10269	昭和2年	冬の部	帰りつけば妻ハ大根引了る	大根引	人事
10270	昭和2年	冬の部	落尽す銀杏葉誰そや掃尽す	落葉	植物
10272	昭和2年	冬の部	草枯や一夢と消えし都の灯	草枯	植物
10273	昭和2年	冬の部	峰のあたり尚しぐるらむよしの山	時雨	天文
10275	昭和2年	冬の部	菊の香のあまりの中に生れけり	菊	植物
10278	昭和2年	冬の部	山賤は楢に櫻を焚にけり	楢	人事
10279	昭和2年	冬の部	御方に楢けふらすな吉野人	楢	人事
10280	昭和2年	冬の部	堅氷のほとりふし楢根楢哉	楢	人事
10281	昭和2年	冬の部	楢つみて砦に似たり國の守	楢	人事
10282	昭和2年	冬の部	雪かぶる楢や朝々取くづす	楢	人事
10284	昭和2年	冬の部	此菊を枯らさじと日に省る	菊	植物
10286	昭和2年	冬の部	迦陵嚩伽啄み飽ける果かも	木の實	植物
10290	昭和2年	冬の部	寒日や勅語捧讀奉答歌	寒さ	時候
10291	昭和2年	冬の部	橘緑耀きて禮を行へり	橘	植物



No.	作句年	部	俳句	季語	分類
10292	昭和2年	冬の部	沓ならびたり此日の大霜に	霜	天文
10293	昭和2年	冬の部	講堂の窓の松影山眠る	山眠る	天文
10294	昭和2年	冬の部	物の聲揚がる枯野の阪下に	枯野	天文
10296	昭和2年	冬の部	何すとして枯菊をおく厨かな	枯菊	植物
10298	昭和2年	冬の部	野に山に冬菜一種なかりけり	冬菜	植物
10300	昭和2年	冬の部	せんなしや又灰となる火桶の火	火桶	人事
10320	昭和3年	冬の部	袖ふれんよすがもあらず冬木立	冬木	植物
10322	昭和3年	冬の部	凍解を心に會して起ちにけり	凍解	地理
10324	昭和3年	冬の部	水鳥の黎明さして羽搏ちけり	水鳥	動物
10326	昭和3年	冬の部	寒椿澆ぐに雪を以ってせむ	冬椿	植物
10603	不詳	冬の部	鉢叩とは泣面の竹の函(函)	鉢叩	人事
10604	不詳	冬の部	寺に入る酢賣賢し大三十日	大三十日	時候
10605	不詳	冬の部	大三十日蒟蒻賣を罵しりぬ	大三十日	時候